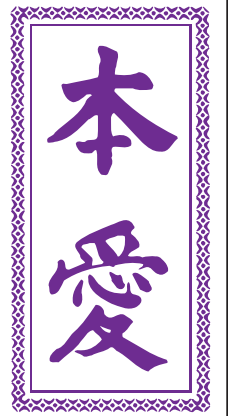


# 六代会長就任奉告祭執行

## 真柱様メッセージ「新会長を芯に奮起を」



本愛大教会の六代会長就任奉告祭は 6月20日、世話人の松村義司・本部長のご臨席のもと、厳粛に執行された。祭典では、安藤吉人新会長の祭文奏上に続いて、真柱様からのメッセージを松村本部長が代読された。



発行  
天理教本愛大教会

〒453-0821  
名古屋市中村区大宮町 1-60  
TEL (052) 461-4326  
MAIL mail@hon-ai.org  
〒632-0071  
奈良県天理市田井庄町 19-1  
TEL (0743) 62-0378  
編集責任 広報部

### 活動目標

喜びの旬  
おたすけの日々  
楽しみの道

梅雨の中休みのような晴れ間が広がったこの日、祭典は午前10時から厳かな雰囲気のもと執行された。安藤吉人会長は祭文の中で、安藤正吉初代会長から始まった本愛の歴史を振り返り、「大教会の名称の理をお預かりする重責を自覚し、初代が教信者にお仕込みくださいました『この道は、ただただ身上や事情をご守護いただくためだけの信仰ではなく、身上や事情をきつかけとして人をたすける心に生まれ変わることで、そしてご恩報じと銘々の因縁納消、すなわち悪しき運命を良き運命にと切り替えていただく道である』とのたすけ一条の精神を受け継ぎ、自ら進んで教えの

理を究め、教祖ひながたの道を率先して歩ませていただきます」と奏上した。

### 真柱様は書面で

この後、本部長・松村先生が参拝され、直後に真柱様からのメッセージを代読された(次号に全文を掲載)。真柱様は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い出席がかなわなかったため、「書面をもって本日の気持ちをお伝えしたい」としたうえで、教会名称の理について論じ、「教会名称の理がいつまでも続くところに親神様の思召がある」と述べられた。

そして、教会はただ形だけが続けばいいのではなく、関わる人の顔ぶれが変わったとしても「つとめる人たちの心は、教会設立を願った人たちの心と変わってしまってはならない」と示された。

そのうえで、新会長と教会に携わる人々に対して願

うことなどを諄々と諭された。

この後、座りづとめと十二下りのてをどりが陽気に勤められた。

祭典後、挨拶に立った大教会長は参集した教会長らに対し、さまざまな形で心を尽くしてもらったことへの御礼を述べた。

また、それに先立ち「会長としてこれから本愛につながる方々にご恩返しできたい。そして、世界をより良い方向へ変えていきたい」と決意を語った。

### YouTubeでも

この日の参拝者は、感染症対策として役員・教会長夫妻などに限定された。このため、ようぼくや信者はYouTubeでのライブ配信を視聴するよう事前に案内がなされた。この日の配信は一時130人以上が同時

# グラフ「六代会長就任奉告祭」



世話人の松村義司・本部員は真柱様からのメッセージを代読したうえで、「このお言葉をよく心に治めていただいて、これから元気に勇んで心を揃えてお通りいただきますよう」と一同に求めた(写真上)。祭典後挨拶に立った新会長は、一同に御礼を述べ、自身の決意を語った(写真左)。



座りづとめとてをどりはこの日に向けて練習が重ねられ、いとも陽気に勤められた。



に視聴したほか、動画にコメントを送るチャットツール上には「おめでとうございます」などのメッセージが多く寄せられた。また、大教会では奉告祭の「記念誌」を発行。記念品も製作された。いずれも後日、奉告祭当日の様子を収めたDVDと共に、各教会に配布される予定となっている。

## 六代会長就任奉告祭 祭典役割

令和三年六月二十日

開 費 指 扨 祭		開 費 指 扨 祭		開 費 指 扨 祭		開 費 指 扨 祭	
屏 者	方 者	屏 者	方 者	屏 者	方 者	屏 者	方 者
大 津 板 大 大	大 津 板 大 大	大 津 板 大 大	大 津 板 大 大	大 津 板 大 大	大 津 板 大 大	大 津 板 大 大	大 津 板 大 大
教 田 山 倉 教 田 山 倉 教 田 山 倉 教 田 山 倉 教 田 山 倉 教 田 山 倉 教 田 山 倉 教 田 山 倉	教 田 山 倉 教 田 山 倉 教 田 山 倉 教 田 山 倉 教 田 山 倉 教 田 山 倉 教 田 山 倉 教 田 山 倉 教 田 山 倉	教 田 山 倉 教 田 山 倉 教 田 山 倉 教 田 山 倉 教 田 山 倉 教 田 山 倉 教 田 山 倉 教 田 山 倉 教 田 山 倉	教 田 山 倉 教 田 山 倉 教 田 山 倉 教 田 山 倉 教 田 山 倉 教 田 山 倉 教 田 山 倉 教 田 山 倉 教 田 山 倉	教 田 山 倉 教 田 山 倉 教 田 山 倉 教 田 山 倉 教 田 山 倉 教 田 山 倉 教 田 山 倉 教 田 山 倉 教 田 山 倉	教 田 山 倉 教 田 山 倉 教 田 山 倉 教 田 山 倉 教 田 山 倉 教 田 山 倉 教 田 山 倉 教 田 山 倉 教 田 山 倉	教 田 山 倉 教 田 山 倉 教 田 山 倉 教 田 山 倉 教 田 山 倉 教 田 山 倉 教 田 山 倉 教 田 山 倉 教 田 山 倉	教 田 山 倉 教 田 山 倉 教 田 山 倉 教 田 山 倉 教 田 山 倉 教 田 山 倉 教 田 山 倉 教 田 山 倉 教 田 山 倉

7月のこよみ	
入社祭	1日 午前10時
よふき会例会	2日 午前10時
月次祭	13日 午前10時
青年会例会	13日 午前10時
布教実修所	14日 午前10時
むつみ会例会	16日 午前10時
女子青年例会	17日 午前9時50分
こども食堂MOGU	17日 午後5時
婦人会例会	20日 午前10時
本部月次祭	26日 午前9時

### 教理随想

## 言わん言えんの理を探る

六代会長就任奉告祭が厳粛に、つとめ終えられ、本愛は陽気ぐらしへ向けて新たな一歩を踏み出しました。この旬は、時代が求めるおたすけに本愛一丸となつて取り組んでいく大事な時です。が、同時に教理をもう一度心に治め直し、教えに基づく生き方を見直す旬であるともいえるでしょう。そのてがかりをみかぐらうたに求めてみたいと思います。

五下り目の三ツにみづとかみとはおなじこところのよごれをあらひきる

とあります。「水と神とは同じ」とまで仰せられることから思案すると、水の姿や働き、性質をよく考えて、しっかりと神の思いを悟ってほしいという、切々たる親心が感じられてきます。水の性質とは何でしょうか。それはまず低い心です。それに柔軟な心、汚れを引き受ける心、人を伸ばす心などが思い浮かびます。ちょうど雨が大地を潤して、困っている人、苦しんでいる人はいないかと心を配っておたすけの相手を探し求め、その人の心に潤いと安らぎを与える。また入浴でお湯が体の汚れを洗い流してくれるように、悩む人の胸の内を聞かせてもらって

穏やかな気持ちになつても、実践することが親神様のお望みであり、水の性質を通してお教えくださるたすけ一条の精神であります。人間は水がなければ生きていくことはできません。ですからただ水に感謝するだけでなく、世の中のため人のために汗水を流して、水の恩に報いることを念じながら日々を送る。お道の信仰者はこの精神をしっかりと心に刻んでおこななくてはならないのであります。

また「二つ一つが天の理」との教えに沿って考えるならば、水と同時に火の守護にも焦点を当てる必要があるでしょう。それは太陽の日射しのような温もり

であり、信仰の情熱であり、また万物を育てる大地のよな温かい心であります。こうした水と火の性質が、まっすぐ陽気ぐらしの方向へ現われればよいのですが、癖性分によって逆向きに現われると、冷たくてむごい心となつて人を押し流してしまつたり、あるいは人の心に火傷を負わせるような結果になることがありますから、よく注意し反省しながら人と接していかなくてはなりません。

■教えを定規として

みかぐらうた五下り目のお歌は次のように続きます。よくのなれものなけれど、かみのまへにハよくはない。(五下り目4) いつまでしんくしたとでも やうきづくめであるほどこに (同 5) むごいころをうちわすれ やさしきころになりてこい (同 6)

教祖はみかぐらうた全体を通して日々の歩み方を教えてくださっていますが、中でも分かりやすく、多くの心構えを示されているのがこの一連のおうたであるといえるでしょう。

人間として欲のない人はいないけれども、親神の用向きに当たる時には欲の心を忘れてほしい。そして人を排除したり押さえつけるのではなく、どんな時も誰に対する時も丸い心になつて、何を見ても何を聞いても「陽気づくめ」でいてもらいたい。こうしたことを私たちがよくに望んでおられるのであります。

いかなる中も教えを心の定規とし、心使いでは人のたすかりを念じながら、水と火のバランスをよく考える。そして身近なところから人だすけを実践して、新しい本愛のたすけ一条の道を喜び一杯の心で歩んでいくにはありませんか。

### 【第79回】

# 水と火のバランスを見極め 陽気づくめの道を弛みなく

5月のおさづけの理拝戴者

本名 出口 和  
本心(本誠愛)高橋 沙織  
本理愛 門田 育美  
以上3名

5月の初席者

本築(本清愛)山下 未展  
本愛中 二井 明里  
以上2名

おめでた

杉村善男氏(61)(本岩塚分  
教会長)は、山中香さん(50)  
(天元分教会部属・関ヶ原  
分教会教人)と縁談相整い、  
去る5月19日入籍した。

本耀分教会四代会長夫人

石井由美之霊の十年祭

本紫水分教会四代会長

石井明之霊の五年祭

本耀分教会では5月23日  
午前11時より、四代会長夫  
人・石井由美之霊の十年祭  
ならびに、本紫水分教会四

代会長・石井明之霊の五年  
祭が行われた。

お出直し

津田十三朗氏(本中村分教  
会三代会長)

6月18日に出直された。  
享年83歳。告別式は6月21  
日午前9時30分より、石川  
文彦・大教会役員を齋主と  
して執り行われた。

公式 YouTube チャンネル開設!

月次祭、入社祭を毎月ライブ配信中!  
おはなし会の様子や講話なども  
ご覧いただけます。



チャンネル登録

大教会日誌

令和3年5月25日~令和3年6月24日

5月

- 26日 本部月次祭 指図方・板山公司 賛者・津田豊郎、出口邦郎
- 31日 常任役員会議◇役員会議 ◇大教会長挨拶
- 奉告祭おつとめ練習 青年会例会
- 講師：橋本成年、南孝太郎、中西純子の各氏 16日 むつみ会例会

6月

- 17日 こども食堂MOGU (参加者 45名)
- 1日 入社祭 こはる会例会
- 祭主・大教会長 扨者・大倉八郎、野田正道 20日 六代会長就任奉告祭
- 指図方・板山公司 賛者・津田豊郎、出口邦郎 (本部員・松村義司先生ご臨席)
- 2日 よふき会例会 祭主・大教会長 扨者・大倉八郎、野田正道
- 12日 常任役員会議 指図方・板山公司 賛者・津田豊郎、出口邦郎
- 13日 月次祭 ◇大教会長挨拶
- 祭主・大教会長 扨者・大倉八郎、野田正道 女子青年例会